



五種混合（DPT-IPV-Hib）予防接種説明書



（D：ジフテリア P：百日せき T：破傷風 IPV：不活化ポリオ Hib：ヒブ）

ジフテリアは、ジフテリア菌の飛まつ感染^{*}によって起こります。国内では、発病の報告はほとんどありませんが、感染しても症状が出ない場合もあり、その人を通じて感染することがあります。38℃以上の熱、のどの痛み、犬の遠吠えのようなせきが特徴です。かかると重い病気で呼吸困難、心臓や神経の麻痺を起こすことがあります。

百日せきは、百日せき菌の飛まつ感染によって起こります。普通の風邪のような症状から始まり、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせきこむようになります。熱は出ません。乳幼児の場合、呼吸困難になることがあり、さらに肺炎や脳症などの合併症を起こすこともあります。

破傷風は、土の中にいる破傷風菌が傷口から入りこむことによって感染します。破傷風菌の出す毒素が神経麻痺や筋肉の激しいけいれん、呼吸困難などを起こします。半数は軽い刺し傷からの感染です。

ポリオ（急性灰白髄炎）は、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。手足に麻痺を起こします。現在、日本では自然感染の報告はありません。しかし、アフリカ・中東などの一部の地域では今でも流行しているので、これらの地域に行った際に感染する可能性があります。

ヒブは、「インフルエンザ菌b型」の略称で、感染すると「ヒブ髄膜炎」を発症します。発症すると1か月程度の入院・治療が必要になりますが、治療を受けても約5%が死亡、約25%にてんかん、難聴、発育障がいなどの後遺症が残ります。その他に肺炎、口頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。これらの病気を防ぐために行われるのが五種混合（DPT-IPV-Hib）予防接種です。

^{*}飛まつ感染…ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物に包まれて空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させること。

1 接種方法について

確実に免疫をつけるために、特別な接種間隔が定められています。接種前に、必ず確認しましょう！

対象年齢・接種間隔		接種回数
第1期初回	生後2か月以上生後90か月（7歳6か月）未満の間に、20日以上（標準的には20日から56日）の間隔をおいて3回接種を受ける。 （標準的接種期間：生後2か月以上7か月未満）	3回
第1期追加	生後2か月以上生後90か月（7歳6か月）未満の間であり、かつ第1期初回終了後6か月以上の間隔をおいて1回接種を受ける。 （標準的接種期間：第1期初回終了後6か月以上18か月（1年6か月）未満）	1回

※ 五種混合を接種する場合、四種混合とヒブを接種する必要はありません。



2 接種後の経過と副反応

接種後の過ごし方について詳しくは裏面をご覧ください。主な副反応は、接種部位が赤くなったり、腫れ、しこりなどの局所的な反応です。また、発熱、不機嫌などの全身反応がみられることがありますが、いずれも一時的なもので2～3日で治ります。重篤な反応はほとんど見られませんが、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。まれに重い副反応として、ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難など）、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんが認められています。

3 予防接種健康被害救済制度について

万が一、五種混合予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する請求について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

- 前回の**五種混合予防接種からの間隔**と他の予防接種からの間隔は、両方大丈夫かな？
- 下痢はしていないかな？ □ 熱は？
- ひどい湿疹はないかな？ □ せきや鼻みずは？
- いつもと違うところはないかな？ □ 機嫌は良いかな？



◎ 予防接種に関するお問い合わせは…



裏面はお読みになりましたか？
不明な点は接種前に医師に
ご確認、ご相談ください。



予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。

赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予防票を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

★ 予防接種のきほん ★

1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) ロタウイルス接種の場合、腸重積症にかかったことがある。
- 6) ロタウイルス接種の場合、腸重積症の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害があり、治療していない。
- 7) ロタウイルス接種の場合、重症複合型免疫不全（SCID）を有する
- 8) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 9) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 10) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
- 11) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
- 12) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
- 13) その他、医師の判断で不適当と判断された場合

2. 予防接種の間隔について

予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

1) 異なる種類のワクチンを接種する場合

注射生ワクチンを接種した場合・・・

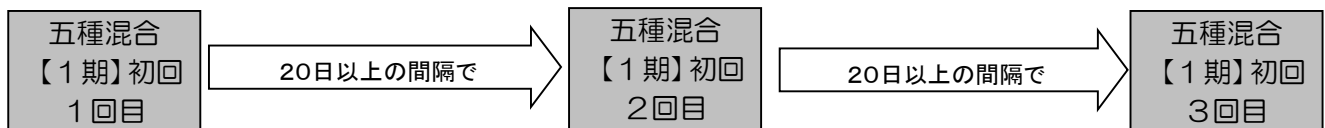
（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）

4週間以上あけてから

注射生ワクチン

2) 同じワクチンを複数回接種する場合

＜例＞五種混合ワクチン



※ B型肝炎、小児用肺炎球菌、五種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、小児用肺炎球菌、五種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel 626-1114）までご連絡ください。